

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 10 月 18 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	重度の方がおられ、離設を防ぐために、玄関ドアが電動で、内側からは開けにくい状態にしており入居者の方に「自由に出られない」という思いを強いてしまっている。	オープンにしている時間を設けたり、外出や趣味活動などを支援心身の活性化をはかり、閉塞感の少ない生活を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援を積極的に行う。 ・縫い物や編み物、家事、庭の手入れ、野菜や花作りなどを一緒に行う。 ・昼間、スタッフの多い時間帯には、玄関ドアの電動を解除し、利用者の閉塞感を解消するとともに、スタッフの、「施錠してあたりまえ」という意識を変えていく。 	3ヶ月
2	21	認知症の進行度の違いから、入居者間で見下した言動などのトラブルがおこることがある。そうした時に、適切に介入できなかつたり、認知症が軽い方に対して職員が厳しい見方をしてしまうことがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・弱者一方だけに偏らず、入居者の方々双方の思いや葛藤の理解に努める。 ・自然に場面や感情を転換できるような介入の仕方を個々のスタッフが身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や自己学習で職員の段階に合わせて認知症の学習や、広く社会行動心理など人間理解の学習を積み重ねていく。「行動障害」ではなく「BPSD」である、と言う捉え方と働きかけをしていくことで、入居者の方への理解を深め、認知症ケアの理念に近づきたい。 ・スタッフそれぞれが自分の思考の傾向や欠点を知り、対人援助職であるという自覚をもって、日々の仕事に向き合う。 ・職員会議や日々の話し合いにより、日常の様々な場面で気づきや関わりを高め、実践する 	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出(ドライブ等)の機会は増えてきているが、車椅子移動の方の外出頻度が少ない。ドライブは難しくても施設周辺の散歩等、外出支援を定期的に行う必要がある。	車椅子の方でも季節に触れる機会をつくる。	・外出支援のあり方を考え、車椅子の方へ対しての援助方法を変更する。車椅子の方でも施設周辺の散歩等を行い、季節を感じることを援助する。外出だけにこだわらず、外気浴も行う。 ・ドライブが楽しめる方には今よりもっとその機会を増やす。	6ヶ月
2	39	好んで着ておられた衣類を施設に持ってこられているが、衣類の選択が難しい方の場合、職員の判断で衣類の選択をし、組み合わせていることがある。	衣類の選択は入居者の方と一緒にやる。	・自己決定がしにくい利用者でも確認をしながら職員と一緒に考えて服を決め、本人の気持ちに沿った支援をする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。